



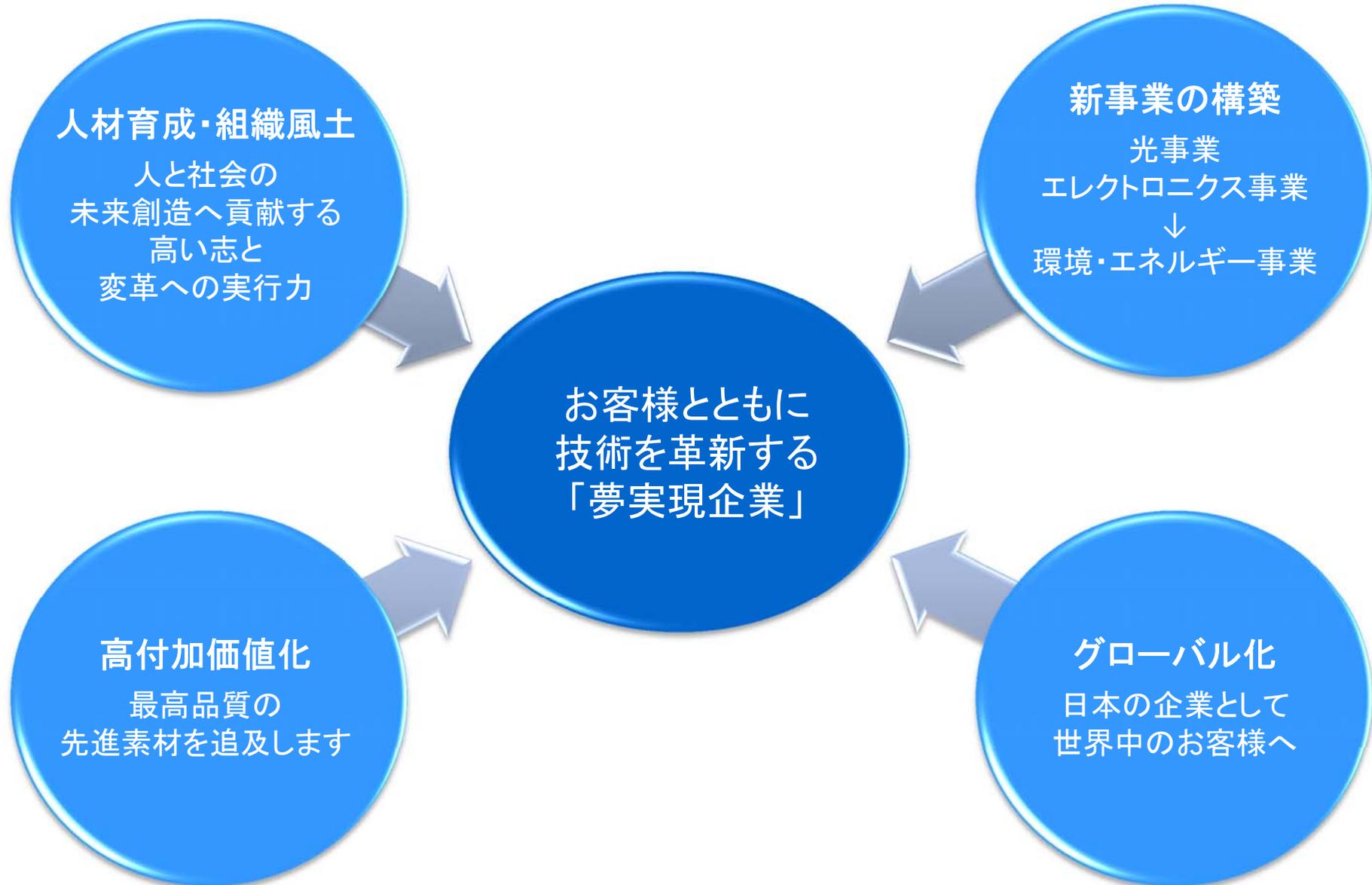
中期経営計画(2012～2014年度)

2011年12月15日(木)

株式会社オハラ(証券コード:5218)

- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

長期ビジョン2020



旧中期経営計画(2009-2011年)のトピックス

事業体制の革新

- ・ 超高屈折率光学ガラス「L-BBH1」などをリリース、
- ・ 世界No.1のゼロ膨張材料「クリアセラム™-Z EX」をリリース
- ・ インキュベーションセンターを創設

トータルコスト競争力の強化

- ・ 中国からの光学ガラス調達開始
- ・ 中国の生産拠点となる合弁会社設立、現地での光学ガラス生産開始

成長戦略の推進

- ・ 焼結による全固体電池構成体の開発に成功
- ・ 世界初の新規光触媒材料を開発

	FY2009～2011 中期経営計画目標	FY2009 (1年目実績)	FY2010 (2年目実績)	FY2011 (3年目実績)
売上高(百万円)	30,000以上	19,490	27,456	28,659
経常利益(百万円)	3,400以上	△736	3,105	1,624
ROA総資産経常利益率(%)	5.0%以上	△1.3%	5.7%	2.9%
総資産有利子負債率(%)	10.0%以下	12.6%	10.7%	13.2%

外部環境

世界経済は欧州債務問題による金融市場の信用不安から景気が減速し、新興国の経済成長も鈍化

国内経済は大震災の影響から緩やかに回復しつつも、円高により輸出競争力が低下

カメラやハードディスク関連はタイの洪水被害の影響を受けたものの、生産能力は早期に回復し、市場の需要も堅調に推移

レアアース原料の価格は沈静化傾向だが、予断を許さない状況が続く

ハードディスク市場では、フラッシュメモリーを利用したタブレット型端末の台頭により成長率が鈍化傾向

中期経営計画(2012-2014年) 基本戦略

フェーズⅡ
2012-2014

長期ビジョン2020

事業構造の転換

新成長ドライバーの構築

事業構造の転換

成長するアジア市場での事業展開を加速するため、開発・生産・販売体制のあり方を最適化

新成長ドライバーの構築

インキュベーションセンターを設置し、企業の長期的な成長に向けた新陳代謝のシステムを構築

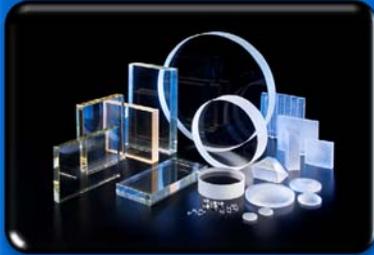
フェーズⅠ
2009-2011

事業体制の
革新

トータルコスト
競争力の強化

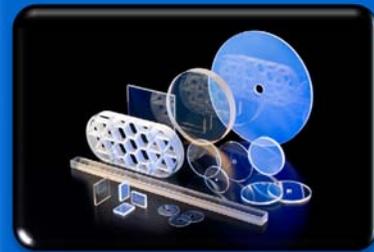
成長戦略の
推進

事業別戦略 ～長期ビジョンの実現へ向けて～



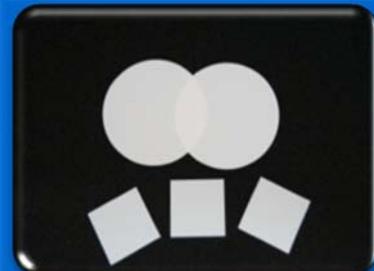
光事業

- グローバル光学ガラス生産体制の構築
- 低Tg光学ガラス 開発・生産・販売体制再構築



エレクトロニクス事業

- ハードディスク用ガラス基板材・特殊ガラス 事業再構築



環境・エネルギー事業

- 新規事業育成

事業別戦略

光事業

市場環境

- コンパクトデジタルカメラは先進国の成長は鈍化傾向、新興国市場では高い成長が続くも、製品価格は下落
- デジタル一眼ではミラーレスタイプの投入も重なり世界的に需要は増加、高い成長が見込める

グローバル光学ガラス生産体制の構築

事業環境の変化を踏まえ、新たなガラス熔解拠点を海外に展開(台湾)
→グローバルでのコスト競争力を強化



低Tg光学ガラスの開発・生産・販売体制再構築

素材開発期間短縮、生産技術の革新
製品形態のバリエーションを拡大
ガラスモールドやレンズ研磨など後工程の事業にもチャレンジ



事業別戦略

エレクトロニクス事業

市場環境

- 2.5インチハードディスク市場では、フラッシュメモリーを利用したタブレット型端末の台頭により成長率が鈍化傾向
- ガラス/アルミの使用比率において、ガラス基板の比率が50%を超え、更にガラス化が加速
- 露光装置市場では、中期的に見れば、高精細パネルや半導体市場は堅調に推移

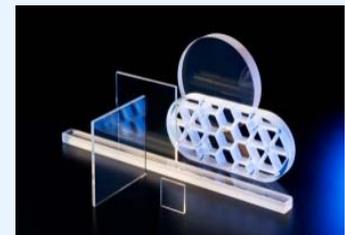
ハードディスク用ガラス基板材事業再構築

次世代技術の熱アシスト磁気記録方式にも適合した新製品の投入
加工技術のソリューション提供も強化し、サプライチェーンの強化に取り組む



特殊ガラス事業再構築

露光装置の高精度化に対応、宇宙・天体観測関連など大型製品の用途開拓に注力
EUV市場の参入へ向けて、世界No.1のゼロ膨張材料を拡販



事業別戦略

環境・エネルギー事業

市場環境

- 世界的に地球温暖化への対策が強く求められる中、再生可能エネルギーへの期待は増大
- 低炭素社会実現のため、安全性・信頼性の高い次世代エネルギーや高性能電池のニーズが高まっている

新規事業育成

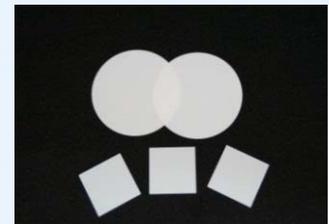
リチウムイオンバッテリー(LB)事業

次世代リチウム電池のキーコンポーネントである固体電解質を開発
金属リチウム電池や全固体リチウムイオン電池など次世代電池の商品化に貢献する

その他

環境に優しく、機能面で優れた特徴を持つ製品を開発
(集光型太陽光発電システム向け光学材料、光触媒材料など)

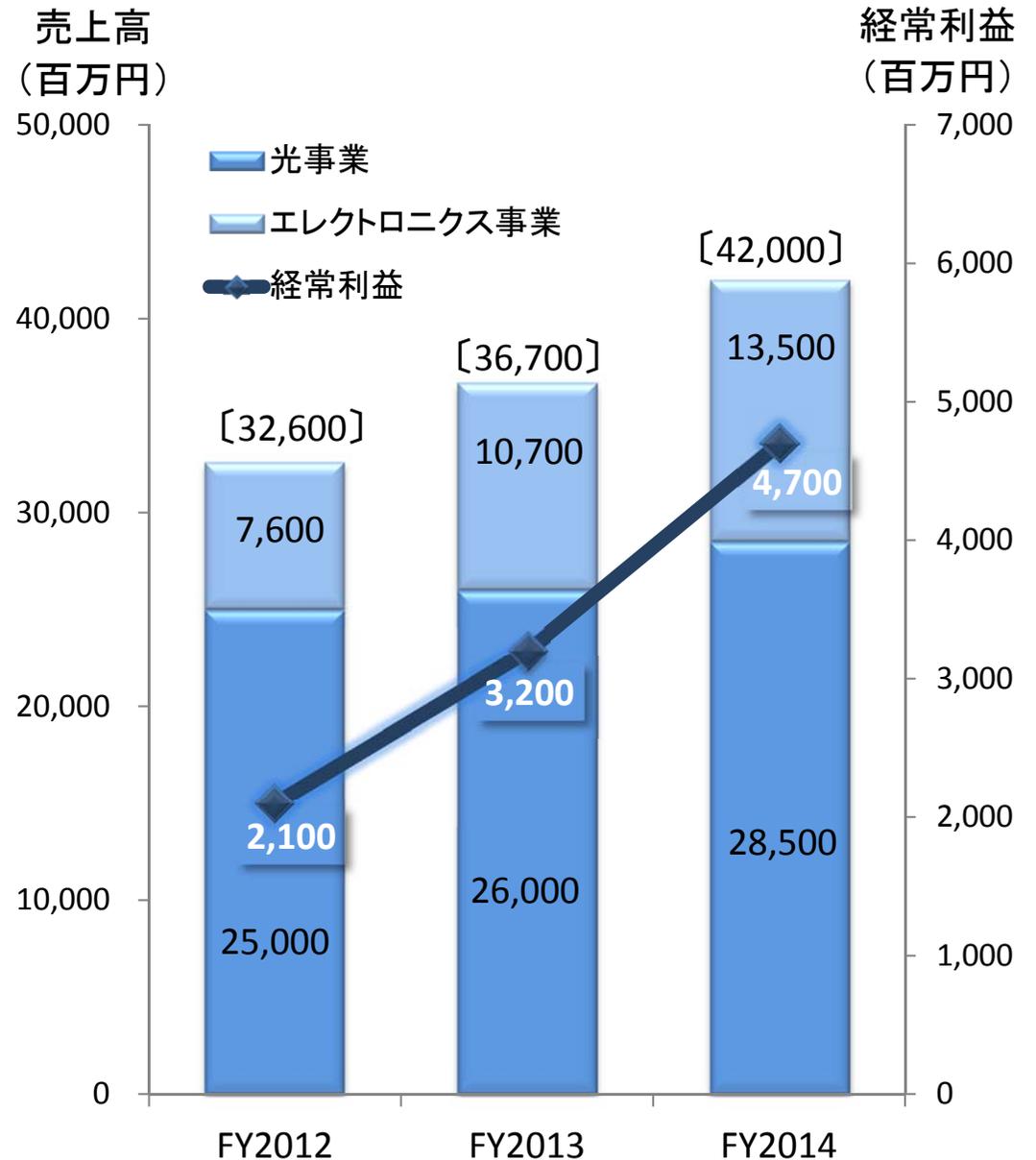
→新たな環境・エネルギー社会の実現に貢献



経営指標

	FY2014
売上高	420億円以上
経常利益	47億円以上
ROA総資産経常利益率	7.0%以上
総資産有利子負債率	15.0%以下

3年間の設備投資予定: 100億円



OHARA